

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500961		
法人名	有限会社 金子		
事業所名	グループホーム 愛乃郷		
所在地	〒857-0341 長崎県北松浦郡佐々町羽須和免927番地		
自己評価作成日	平成21年10月26日	評価結果市町村受理日	平成22年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【1階】ご本人が一日の中で(仕事の分担ではあるが)、何がしたいか・何が出来るかを自己決定して頂き「今日の自分の仕事はこれなんだ!」と意識されている。学習療法も本格的に実施し始めて、約一年経ち、少しずつではあるが、学習療法の本来の意味が分かりつつある。

【2階】
 ・学習療法を取り入れることで、脳の活性化を図り、認知症の進行を少しでも予防できるよう、職員全体で勉強会を行い、入居者一人ひとりに無理がないよう取り組んでいる。
 ・入居者様の殆どが、高血圧や糖尿病等内臓疾患の薬を飲まれている為、年に一回程毎日の食事のバランスなどを、地域の公共施設の管理栄養士にチェックしてもらっている。そのため、食材の活用法、減塩、糖尿病食等、個別に対応し食事の提供をしている。
 ・個々の自由な時間も取られているが、殆どの方がフロアーで過ごされている。入居者様同士の会話もあり笑顔も多く見られる。
 ・医療機関との併設ではないため、常に職員が入居者様の状態を把握して、主治医に報告を行い早期の対応を心掛けている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年11月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム設立5年になり、町内のグループホームと連携を持って、情報の交換や行事への相互の参加に伴って地域との協力体制が徐々にできてきている。外部評価の結果から「改善計画シート」を作成し到達目標を設定し、事業所全体の質の向上に積極的に取り組む事に努められている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の理解も出来ており、笑顔を絶やさず対応していると思う。	ホーム名の頭文字を用いた理念を掲げ、職員が見える場所に張り出されており、職員が意識を持って介護の実践がなされている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	うちのホーム内での出来る範囲で、買い物やレクリエーション行事で、地域へ出向くように心掛けている。	地域内のグループホームで情報交換やイベントなどに地域住民と共に取り組んでいる。町内の行事開催や行事参加の案内があり、地域との円滑なつながりができている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会などで、町内の方や、ご家族の方への報告はしているが、支援の方法を地域の人々に向けて活かしていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域の方との意見交換で、その後スタッフへ報告してケアに役立てている。	2ヶ月に1回開催している。1年前から学習療法に取り組んでおり、細かい取り組みを生かした支援につなげている。	更なるステップアップとして、家族や地域住民に「モニター役」をしてもらい、客観的な視点で会議の進行や意見などを更なるサービスの向上につなげていくことに期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会等での報告が主になっているが、必要な時は連絡をとっている。	運営推進会議には毎回、町の担当職員の参加があり、ホームの要請に応じた対応がされている。また、実習生の受け入れに対してのアドバイス等も受けられている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1.2階のドアの鍵はつけているが、現在ではかける必要性は全くないが、夜間の転倒防止の為にベッド柵を取り付けている入居者もいる。	行動の抑制や言葉での拘束に対して理解し、昼間は常に見守りが途切れない介護を実践されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加しており、又、入浴時や更衣時には、身体の観察と報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本等では学んだ事はあるが、その事にまだ必要性を話し合った事がない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面会時等改定の説明を行っているが、契約に関しては全スタッフが説明し結ぶ事は今の所出来ていない。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にケアプラン作成に伴い、意見などを聞いているが、外部者への報告は行っていない。	家族から貴重な意見、要望等を聴取されても対応策や改善策を家族に報告されるまでには至っていない。	更に、事業所の質の向上を目指して、目的を明確にした満足度調査などから利用者・家族の情報収集を図られ、分析・検討した結果を家族等に報告されるなど取り組みに期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングは行っているが、それ以外でもスタッフの意見は聞いて頂き、反映できている事が多い。	1階と2階の職員の行き来はしており、それぞれの良い面は取り入れ介護の向上に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とのコミュニケーションを図られていると思う。その事で、状況を把握されていると思われる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の場を提供しており、それをホーム内で報告し、実践している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議などの参加で交流する機会を作って頂き、意見交換や見学をさせて頂く事で、反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情や行動が、いつもと違う場合は、きちんと話をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係作りは行っているが、こちらからは尋ねる事はしていない。面会時は、近況報告は行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要としている事をスタッフ間で話し合い、家族の方へ伝えている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務に追われ、難しいが、調理や買い物・掃除等、出来る範囲はして頂いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の訴えを聞きながら家族に連絡を取り、面会して頂いたり、体調不良の時などは、必ず報告して、理解して頂いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物に行っており、談笑されたり、又、地域の方々もよくお話されたり、外泊の時等は散歩されておられる。	家族面会時に入居者の知り合いを連れて来られる事がある。また、新聞を購入されている入居者からチラシを見て、買い物に行く事も多い。外出すると地元の商店の顔なじみの方と談笑されるなど継続した関係の支援ができています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう座る席を考えたり、スタッフが間に入り、関わりを持って頂くよう声掛けし、会話ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた場合は、初盆等行っているが、退居された場合でも、また当ホームへ戻りたいと言われる方には、経過や相談等行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何をしたいか等の把握は出来ていると思われるが、実施できているとは思われない。又、困難な方は、職員本位になっている。	できそうなことを札にした物を提示し、入居者のやる気や意思を確認され、支援につなげられている。	固定化した生活援助ではなく、本人のその時の状態に応じた生活の希望や意向の把握に努められ、現状に即した支援に期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様へ尋ねたりして、把握出来ていると思う。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態把握出来ている。又、スタッフ間での報告・伝達も出来ており、把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様には、面会時に報告行っている。ミーティング時や、その日の勤務者で話し合う事もあり、それを反映してモニタリング・ケアプランを作成している。	本人の意向や家族からの情報収集から、モニタリングを行いケアプランに生かしている。	日々の個別記録が介護計画に反映できる記録の仕方に期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や、介護支援経過を記入しているが、その時の表情等は記入不足の所もある為、スタッフ間で報告し、見直しに役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に必要なサービスを見極め、体操のものディサービス参加を検討したりして、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の出来る事(個別作業)等と考えながら支援しているが、転倒を予防する為、限られてくる。季節ごとの花見や地域で展示されている節句の展示品など見学をし、楽しんで頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態に応じた指示を受け、対応を行っている。場合によっては、家族様と一緒に受診を行っている。	これまでの掛かりつけ医の支援もされているが、看取りを考慮して嘱託医へ移行されることもある。又、嘱託医が中心となった医療連携で入居者の日常的な健康把握もされている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化がある時は、看護師へ報告して、それでも気がかりな場合は、主治医へ報告し、受診している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が面会に行く等し、常に病院との情報交換に努めており、退院に向けての事も職員間で話し合い、対応を検討している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針の説明は、家族様へ行っている。文章化しサインを頂いている。ホームで出来る事を十分に説明しながら、支援している。	改善計画として「看取りの方針」を作成し、入居者の家族は全員希望されている。連携病院と主治医が理解を示され、入居者の重度化や終末期の段階に応じた職員の連絡や家族への医師から説明があることで家族も安心されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応の訓練は、行っておらず、定期的な訓練が必要だと思う。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消火・避難訓練を行っており、避難の仕方、できる方法は、身につけている。地域との協力体制も築いている。	年に1回は消防署の指導のもと訓練をしている。ホーム独自で災害の想定を変えた訓練をしており、近隣にも伝えて協力体制づくりに努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねない言葉掛けをやって いるつもりでも、時には違った言葉を掛けて いる事がある。	人としての尊厳を意識した介護を実践されて おり、職員同士で言葉掛けへの注意をしてい る。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	個別作業等の取り組み等、自己決定の仕事 の役割を自分で表現できるように働きかけ ている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしたいが、難し い時もあり、希望に添って支援する事が出 来ない場合がある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	声掛け誘導等で髪をとかされている。本人 の希望等で、散髪行い、定期的に爪切りも 行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	出来る範囲で行っている。片付けも自発的 に食器拭き・テーブル拭きをされる。	入居者の自発性や自主性を大切にして、 テーブル拭きや後片付けをされている。入居 者の希望に合わせた献立の工夫をして、食 事を楽しむ支援をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	減塩に心掛けている。一人ひとりの状態・体 重増減も考慮しながら対応している。食事量 や水分量も把握出来ている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	個人でケア出来る方は、見守りで行って 頂き、残歯も磨いて頂くよう声掛け行っ ている。夕食後には義歯を外して頂き、ポリデ ント洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間と日中の対応の仕方・夜間のみ尿取りパット使用される等、その方に合わせた支援を行っている。排泄の失敗がないように3時間置きの声掛け誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、昼間はトイレ誘導をしている。夜間は尿取りパットを使用することにより、睡眠を妨げない支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操時は腹部マッサージを取り入れ、毎朝食事は、ヨーグルトを食している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほとんど職員の都合となっているが、本人の希望は取り入れている。入浴時は、コミュニケーションを図るようにしている。	入浴拒否の方には時間をずらして促す工夫がされている。自立の支援の延長線として入浴時の危険性を把握しながら人としての尊厳を保つことを職員は自覚し、入浴時のコミュニケーションを大切にしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息されたりはあるが、夜間、気持ち良く眠って頂く為に、昼間は起きてもらうように声掛けしている。状況に応じて対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各担当で調べ、一人ひとりの内服薬・症状変化について、記載し、ファイルとして作成し、全スタッフが把握出来る様、調べられるように置いている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	尋ねて、答えて頂く。利用者の方には可能な限り支援し、状況に応じて気分転換(ドライブ・買い物)等の支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと買い物に出掛ける事もなるが、本人の希望は言えない人が多く、言える方は家族の協力はあるものの、地域の人々の協力はほとんどない。	新聞の折込広告を見て買い物に出かける支援がされている。お墓参りなど、希望に添えるようにできる範囲で支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理は出来る利用者の方には、所持して頂いている。スタッフと買い物に行った際は、解体物を買われている。家族様には、承諾を得ている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと言われた方には、時間を見て対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の障害物を少なくし、車椅子の移動・転倒の危険性等工夫しているが、季節感を感じさせるような、工夫が足りなく思う。温度・湿度を常に確認し、配慮している。	玄関脇の壁面には、月毎の行事写真等が月枠に埋めてある。訪問したときは師走を残した絵巻になっており、生活感や存在感が活かされた取り組みになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで日中を過ごされる方が多いが、畳フロアもある為、そこで過ごされる事もある。自ら自室に行かれたりされ、状況を見ながら声掛け行っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にあった物(タンス・写真・ベット)を持参され、使用されている。	入居者の使い慣れた物が持ち込まれており、個性が分かる居室で、居心地良く暮らせることがうかがえる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器拭き・テーブル拭き・洗濯物たたみ等、自発的にされているが、いずれも見守りや声掛けを行っている。建物内部には、トイレの表示、注意等分かりやすく表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500961		
法人名	有限会社 金子		
事業所名	グループホーム 愛乃郷 2階		
所在地	長崎県北松浦郡佐々町羽須和免927番地		
自己評価作成日	平成21年10月26日	評価結果市町村受理日	平成22年1月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入り口へ掲げている。職員間で、声に出して実践に向けている。常に笑顔を絶やさず、ありがとうの気持ちで介護にあたっている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	包括、社協などの展示や催しがあれば、積極的に参加している。餅つき等行事の時には、他の施設にも声を掛けて参加して頂き、交流を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を通じて、介護への理解を深めて頂いている。また、施設への訪問客や面会、見学の方より相談があった場合は支援の方法を提案している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の開催をしており、ご家族や様々な地域の取り組みの報告を行っている。必ず、職員へも議事録にて報告を行い参考になる意見があれば介護の向上に生かしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に報告や相談を行い、援助が必要な時は協力をしている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については理解しており、施錠は行ってない。そのため、常に見守りは行い事故がないようにしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修にも参加しており、職員一人ひとり、自覚を持って勤務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに、事故はなく話し合いの場を持つ事がなかったが、職員が実践者研修等で学んできており、その知識が今後の介護に活かされたいと思う。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時には、必ず文書にて説明を行い、同意書ももらっている。 質問や不安等には、傾聴し対応している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口へ意見箱を設置している。 運営推進委員会へ、ご家族の代表も参加してもらっており、直接質問や感想を述べられている。また、その時の内容を議事録に記入しており職員間で共有している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングを行い、職員の意見を聞いている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常の勤務態度を見て、それぞれ個人を認めて頂き、給与にも反映してもらっている。 とても、やりがいがあり常に前向きに仕事が出来る環境である。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに合わせて、研修の機会を与えてもらっている。その資料や報告書などを利用して、マニュアルの作成や勉強会を開いている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や、佐々町の地域支援会議に参加しており、研修等でも他の施設の職員との交流の機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人としっかり話をし、要望があればセンター方式や、アセスメントシートを活用して全職員で周知している。全体で検討して実行できるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面会時や、電話連絡の時にご家族の意見があれば、傾聴して安心、納得されるようできる限り対応している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>支援の優先順位を考え、全体を見てプランを作成し、対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>できることは自力でして頂き、共同生活の場として、お手伝いや役割など持って頂き一日の流れの中で一緒に過ごすようにしている。</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族と本人が触れ合える機会(行事等)を設定したり、双方の気持ちを考えながら、色々な方法を提案し話し合っている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>思い出のある人や場所(美容室・床屋)等があれば、連絡したり近くまで行ったり、また手紙のやりとり等もできるよう支援している。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>自然と入居者様同士の関わり合いができています。優しく手を差し伸べたり、助けられる姿があれば、「ありがとう、助かりました」等とお礼を言葉で伝えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設へ入られた方には、各職員が面会に行っており、様子を伺っている。また、病院に入院され亡くなられた方にも葬儀や法要にも伺っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを尊重している。困難な場合でも、ご本人の思いに近づけるように、行動を見ながらお手伝いをしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご本人やご家族に尋ねている。分からないことがあれば、入居前のケアマネジャー等にも聞き取りを行っている。その内容をセンター方式に記録して、いつでも見れるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝8:00と午後13:30にバイタルチェックを行い、異常があれば再検をしている。日常の顔色、表情を見て随時変化があれば、その都度対応している。勤務交代しても把握できるように介護記録にも記入している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者の望む暮らしに向けての情報収集を行い、ご本人やご家族が持っている生活の力や介護の力を把握して、必要な関係者と話し合い作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	改善されたことや困難なこと、話された言葉、行動等介護記録に記入し、必要があれば職員間で話し合いを行い、介護の見直しを役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の毎日の生活、またご家族に対して気づきやアイデアがあれば、職員間で話し合い固定観念にとらわれずに、ご本人やご家族の状況に添うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括や社協、役場等地域と連携をとったり、昔から利用されていた床屋さん等へも、行かれるようにすることでご本人が安心されるよう、援助を行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向にて、主治医を決めている。施設にて変化や異常があった場合は、ご本人やご家族に了解を得て、症状にあった病院にて対応している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化に気付いた時点で施設長や看護師に報告し、様子観察している。ご本人やご家族に連絡し必要があれば受診している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	細めに面会に行き、担当者より状態を聞いている。ご家族の意向も含み早期退院に向け、対応している。ソーシャルワーカーとも蜜に、連絡をとり相談を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居者全員の方に、看取りの同意書ももらっている。状態の悪化が見られたら早めに、ご家族や主治医に報告し今後の方針を話し合い、全職員で取り組むようにしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の心肺蘇生術は、殆どの職員が研修や訓練をしているが、実際にその時点に対応できるかは分からない。そのためにも、年間行事として場を設けて取り組む必要がある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災(昼間・夜間)を想定した避難訓練を実施している。当日には、近隣の応援の声掛けも行い訓練に参加してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、生き立ちや性格を踏まえて言葉を選び、優しい言葉掛けを心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行って貰うのではなく、お尋ねしてご本人がいくつかの中で選ばれるような声掛けをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、ご本人の体調や表情を見て対応している。ご本人が「眠たい」と言われれば、お部屋でゆっくりされるよう案内している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今、持たれている洋服の色やデザイン色々ありますが、基本的にご本人が着たい洋服を自由に着てもらっている。必要あれば、スタッフとご本人が話し合いながら洋服を準備している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意な事を活かして、野菜切り・米とき・下ごしらえや調理・片付けまで手伝ってもらっている。個々の嗜好も考え、食事作りをしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼力や、嚥下がスムーズに出来ない人には、食べやすく切って、お出ししている。また、食事量が入らない方は、栄養剤などのジュースでカロリーを摂ってもらっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、自力で出来ない方も個別に対応し、ケアしている。義歯の不具合や虫歯にも注意して、観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁があっても速やかに対応、処理して、ご本人が落ち込まない様にしている。個々に合わせたトイレ誘導を行い、出来るだけ、オムツやパットの使用を減らしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を選び調理している。毎朝ヨーグルトをお出ししており、水分を多く摂られるよう、声掛けしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴してもらっている。体調に合わせて入ってもらっているので、「入りたくない」という方がいれば、無理には入らせず、様子見ている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活環境に合わせて、お昼寝や入床をして頂いている。寝る前に読書をする事で、安心して眠られる方もおられる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが、内服薬の用法、用量を調べファイルしている。又、服薬の際にはスタッフ全員で確認を行い、手渡し、見守りを十分にしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味を生かし、縫い物、料理、書道等の声掛けを行っている。出来るだけ全員の方に役割を持って頂き、「自分が」と思われる様、援助している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩へは、個人個人スタッフと行ける時があるが、普段行けない場所へは、インフルエンザ等の予防も含め、なかなか行けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人に意向を大切に、ご家族と話し合い、管理が可能な方には持って頂いている。買い物等、ご自分で払える様、支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より申し出があれば、対応している。手紙が来た場合、ご本人の直筆により、返事が書ける様、道具を用意して支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各空間は適度に広く、常時、温度・湿度の調整行っている。花や植物もテーブルに配置して季節を感じて頂いている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席、畳の間もあり、入所者同士、顔を合わせられる様な配置をしてある。自室へ入られる方もおり、臥床されたり、書き物をされる方もいる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ居心地良く過ごして頂く様、自宅より持参して頂いている。写真や住牌を持参されている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所等、解りやすいように表示している。部屋の扉には名前を書いたボードを貼り、写真やご本人の作品を掛けている。		